

第1学年 英語科学習指導案

日時 平成16年6月29日(火) 5校時
学級 1年C組 男子19人 女子20人 計39名
指導者 姉帯和子

1、単元名 New Horizon English Course Unit 3 グリーン先生の初授業

2、単元について

(1) 教材観

この単元は、グリーン先生の初授業での自己紹介に始まっている。パート2, 3では、生徒たちによる先生のインタビューが続いている。ここでは、初めて一般動詞の文(肯定、疑問、否定)が導入され、Unit 1, 2で習ったbe動詞の使い方と混乱する生徒もいると予想される。

コミュニケーションに有用な一般動詞を用いて、自分が関心のある事柄について簡単に自己紹介できたり、簡単なインタビューをしたりそれに答えることを目標としている。ここでは、一般動詞の文(肯定、疑問、否定)に慣れさせ、Be動詞との違いを理解させたい。

(2) 生徒観

1年C組の生徒は、英語に興味をもっている。しかし、理解するのに時間がかかる生徒が多いため、なかなか定着せず、質問にすぐ反応できない。習った英語を使って応用することも苦手意識をもっている。中間テストでは、単語を書くことや文を組み立てる問題の達成率が、一番低かった。英語の授業の中で、興味をもって授業に取り組むこと、繰り返し学習することで定着を図り、次への学習意欲につなげたい。

(3) 指導観

like, play, speak, wantなどの必修語の習得と疑問文とその答え方に慣れさせたい。また、Unit 1, 2で既習したBe動詞との文の違いを理解する。実際のコミュニケーションで、一般動詞とbe動詞での疑問文とその答え方を区別できなく、混乱する生徒も多いと思われる。単元末では、前回までに定着させることができなかった単語の復習、'Who am I?'クイズを用いた学習意欲の向上と基本文の定着を試みたい。

(4) 家庭学習との連携

毎時間、教科書の習った必修語の復習を行っている。また、予習で、単語の意味調べと、本文をノートに写してくることを行っている。自分がどの程度できているかの確認を自己評価で行い、その単語や基本文をノートやプリントに練習してくることを習慣化させたいため、ノートに判を押し、その数を記録している。

単元末では、前回までに定着しなかった単語や文型を中心に、補充・発展させたい。

3、単元の目標

(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

- ・ 初歩的な英語を用いて、自分のことを表現したり、相手からの情報を得たりする活動に積極的に取り組もうとする態度を養う。

(表現の能力)

- ・ 一般動詞を用いて相手に質問し、それに適切に応答したり、自己表現したりできる。

(理解の能力)

- ・ 一般動詞の肯定文、疑問文、否定文を用いて、伝えられた情報・内容・質問を正しく理解する。

(言語や文化の知識・理解)

- ・ 一般動詞の肯定文、疑問文、否定文の用法を正しく理解させ、日本語との文の構造の違いを理解する。

4、単元・題材の指導計画と評価規準

| 次 | 時 | 指導目標 | コミュニケーションへの意欲・関心・態度 | 表現の能力（話す、書く） | 理解の能力（聞く、読む） | 言語や文化の知識理解 |
|---------------------------------|---|--|-----------------------|--------------------------------|-------------------------|------------------|
| Unit 3 パート 1 | 1 | 自分が関心のある事柄についての情報を含めた簡単な自己紹介ができる。 | 簡単なメモを取るなど積極的に聞いている。 | | 聞いた内容について正しく理解する。 | 一般動詞の肯定文の文を理解する。 |
| パート 2 | 1 | 趣味や学校生活について、簡単なインタビューをしたり、それに答えたりすることができる。 | | 質問しようとすることを聞き手に正しく伝えることができる。 | | 一般動詞の疑問文を理解する。 |
| パート 3 | 1 | 一般動詞の疑問文、否定文を作ることができる。 | | 文法に従って、正しく書くことができる。 | | 一般動詞の否定文を理解する。 |
| Listening、 Speaking Plus. | 1 | コマーシャルを聞いて、その内容を聞き取る。 | ロールプレイに意欲的に参加する。 | | 聞いた内容について正しく理解することができる。 | |
| Unit 3 のま とめの活動 (本時) | 1 | 既習文を用いて、特に定着していない語彙、基本文の総復習 | 既習文を用いて、クイズに積極的に参加する。 | 既習文を用いて、正しく質問をし、適切に回答することができる。 | | |

5、本時の指導

(1) 目標

- ・ 既習文を用いて正しく質問をし、適切に回答することができる。(表現)
- ・ 既習文を用いて、コミュニケーション活動に積極的に参加することができる。(意欲・関心・態度)

(2) 本時の観点と具体的評価規準

| 具体的評価規準 評価の観点 | A 十分満足できる。 | B おおむね満足できる。 | C 努力を要する生徒への手立て |
|---------------------|-----------------------------------|--------------------------------|---|
| コミュニケーションへの意欲・関心・態度 | 自ら意欲的に活動に取り組むことができる。 | 活動に取り組むことができる。 | グループへの指導。グループの中で生徒同士の援助をうけることで自信を持たせたい。 |
| 表現 | 一般動詞の疑問文を正しく使用し、相手に質問し、答えることができる。 | 一般動詞の疑問文を使って、相手に質問し、答えることができる。 | 机間巡視による個やグループへの指導 |

(3) 展開

個に応じた指導

評価

| 段階 | 学習活動及び内容、予想される生徒たちの反応 | 支援、評価、留意事項、教材等 |
|--------|---|--|
| 導入(10) | 1 曜日の歌、あいさつ(1分) 2 単語カードによる単語復習(4分) ・ペアで日本語 英語でいままでの単語や基本文を言う。 3 必修動詞の復習(5分) ・教科書で扱う必修語動詞を中心に復習する。 ・家庭学習プリントで復習する。 | ・自分で言えた数の単語を記入し、自己評価する。 ・フラッシュカード |
| 展開(35) | Who am I?クイズをしよう 4 自己紹介発表(5分) ・順番に今日発表する生徒が、発表 5 既習疑問文の確認(5分) ・Are you ~? や Do you ~? の質問と応答 6 Who am I?(25分) 「私は誰でしょう」クイズ ・既習事項、Are you ~? や Do you ~? を使って質問をしたり、答えたりする。 | 小グループで練習 既習文を用いて、正しく質問をし、適切に回答することができる。(プリント) 班で教えあって、挙手できるようにする工夫する。 既習文を用いて、コミュニケーション活動に積極的に参加することができる。(観察) ・プロジェクター ・コンピューター |
| 終末(5) | 7 自己評価と家庭学習の確認(3分) ・自己評価を記入する。 8 次時の予告(2分) | 自己評価と家庭学習の目標を書く。 ・次回のUnit 4に期待感を持たせる予告にする。 ・視聴覚機器 |